



スタジアムで 研修員がダンス!

気持ちの良い秋晴れとなった今年9月、西アフリカの伝統的な太鼓「ジャンベ」の力強いリズムが響き渡る。ここは、Jリーグ「サンフレッチェ広島」のホームスタジアム、「広島ビッグアーチ」。Jリーグ公式戦が開催されるこの日、グラウンドでは試合開始前のイベントがにぎやかに行われていた。アフリカの太鼓の音に合わせて陽気に踊っているのは、JICA中国の研修に参加している、アフリカやアジアの研修員たち。チームのマスコット「サンチェ」がダンスの輪に加わると、研修員の間から一斉に歓声が上がった。

「市民一人一人に、それぞれの立場でできる国際協力を見つけてほしい」。そんな願いとともに、今年7月にスタートした「なんとかしなきゃ!プロジェクト」見通し「55億人」※。全国の国際協力のアクターと連携し、世界の問題や途上国支援の現状をウェブやイベントなどを通じて発信する市民参加型プロジェクトだ。一般の個人や企業、NGOや自治体などの団体、国際協力に関心のある著名人らが数多く賛同し、協力者として広く情報を発信しながら、国際協力への理解と関心の輪を社会に広げている。

そして今回、プロジェクトにまた一つ心強い仲間が加わった。それが、J

リーグを代表するチームとして、今年初めて国際大会「アジアチャンピオンズリーグ」に出場したサンフレッチェ広島。「サンフレッチェ広島なんとかしなきゃ!宣言」と題して開催されたこの日のイベントは、チームがプロジェクトに参加したのを記念して行われたものだ。

「プロとして常に勝利を目指すのは当然ですが、一方で、サッカーのことだけを考えていけばよいとは思っていません」

そう話すのは、株式会社サンフレッチェ広島事業本部の佐々木温(ぬか)さん。「子どもたちの『ふれあいサッカー教室』など、私たちは普段から地域社会への貢献に力を入れています。今年は初め



試合前のイベントで披露された、JICA研修員と広島出身の青年海外協力隊OB/OGによるアフリカダンス。ここ広島にも海外から多くの研修員が来ていること、そして国際協力の経験者がたくさんいることを知ってもらう良い機会となった



大型スクリーンでは、槇野選手の力強いメッセージが流された

サンフレッチェ広島と なんとかしなきゃ!

国際協力の輪を広げていく

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」に、心強い仲間が加わった。

Jリーグの「サンフレッチェ広島」だ。スタジアムでのイベントをはじめ、平和都市・広島を代表し、プレーを通して多くのサポーターにメッセージを送り続ける。



多くの人々にぎわったJICA中国のブース。「スタジアムにはサポーターがたくさん詰め掛けます。こうした“場”を生かすことで、人々が世界の現状に目を向けるようになってくれれば」と佐々木さんは話す

てアジアを舞台に戦ったこともあり、今後、チームとしてより大きな世界にも目を向けていけたらと考え、プロジェクトに参加しました。

平和都市 広島の代表として

「僕は広島生まれの広島育ち、広島の街が大好きです」

場内の大型スクリーンに映し出されたビデオメッセージでサポーターに語り掛けたのは、日本代表でもあるサンフレッチェ広島の槇野智章選手。「65年前、広島に原子爆弾が落とされ、多くの方が亡くなりました。世界には今も戦争に苦しんでいる人々や子どもたちがたくさんいます。僕がプロ選手としてサッカーに打ち込めるのも、平和があつてこそだと思います。普段は陽気な人柄で人気の槇野選手だが、メ



ッセージを伝えるその真剣な表情に、スタンドのサポーターたちもじっと聞き入っている。

「国際協力って何か特別なことをしなくちゃいけないって訳ではないと思います。あなたにできる国際協力を見つけてみましょう!」。力強いメッセージが、スタジアム中に響き渡った。

一方スタジアムの外では、食べ物や応援グッズなどを販売するコーナーと並んで、JICA中国がブースを出展。ビニール袋や布などを丸めた手作りサッカーボールを見て、「こういうボールしか手に入らない国もあるんだ...」と子どもたちも驚いた様子。また、楽しみながら途上国の現状を学ぶ「キックターゲット&クイズ」のコーナーや、JICAボランティアの活動写真なども展示され、子どもたちでにぎわって

いた。

「平和都市・広島を代表するチームとして海外で戦うことができ、大きな誇りを感じました」と話すのは、チームのキャプテンを務める日本代表フォワード・佐藤寿人選手。「貧富の差は関係なくボール一つで誰でも始められるサッカーは、多くの人々を幸せにできる力を持っています。たくさんの人たちに応援してもらっている僕たち選手とチームが、『世界のことを考えよう』とメッセージを送ることで、きっと大きな力が生まれると思う。そのためのお手伝いができればいいですね」。

今後も、ピッチで選手たちが見せる熱いプレーは、「なんとかしなきゃ!」のメッセージとともに、スタジアムの多くのサポーターの心に刻まれていくに違いない。



以前、日本代表の合宿で南アフリカ共和国を訪れた際、現地の子どもたちとサッカーを楽しんだという佐藤寿人選手。「一緒にボールを蹴っているだけで、言葉の違いや貧富の差、心の壁があつという間に取り払われてしまうんです」

※実行委員会は、JICA、NPO法人国際協力NGOセンター(JANIC)、国連開発計画(UNDP)。
URL: <http://nantokashinakya.jp/>